

令和４年度 第２回釧路市地域ケア会議（本体会議） ご意見等の集約結果

ご意見	回答（市）
各地域ケア会議におけるリハビリ専門職の参加がいくつかあり、生活課題の解決に役立っているのは素晴らしいことだと思います。リハビリ職だけでなく、個別課題における専門職の参加が今後もっと広がれば良いと思います。 コロナ禍で自粛することが当たり前となり、これからどのように地域活動（地域交流）を広げていけばいいか我々も手探りの状態です。地域資源が増えなければ生活課題の解決につながらないことも多いと思うので、活動の際の感染対策に関して、すでに活動されている事業所の事例等を知る機会があればありがたいです。	地域活動（地域交流）の場を広げていくことは課題解決に向けて重要な取り組みと考えます。 認知症カフェにおいては、現時点で他事業所においてもほぼ活動が途切れている状況にあります。今後新型コロナウイルスの５類への移行等もあり、新たに取り組みを考えていく機会と捉え、各地域包括支援センターの認知症地域支援推進員と連携してすすめているところであります。 なお、認知症カフェではないので参考情報となりますが、住民等主体の通所サービス（おたっしやサービス）においては、事前に自宅での検温（必要時会場での検温）、マスクの推奨、手指消毒、１時間に２回以上の換気、飲食をする場合は座席の配置の工夫や個別の配膳等、様々な感染対策を講じながら活動しているところであります。
ケアマネジャーは、地域の方の情報に助けられることが多いので、民生委員以外に地域住民の中で「ちょい見守り隊」のような仕組みを作り、近隣で様子が気になる、困っていそうな方がいれば、地域包括支援センター等に連絡が行くような体制があれば、スムーズに支援につながるのではないかと。 町内会は加入率の減少や廃止になっており、これからは高齢者だけでなく支援が必要な方が孤立していくリスクが高まります。地域包括支援センター、行政、他関係機関で連携・協働し、チームとして課題の解決、社会資源の開発を進められることがより良い地域づくりにつながるのではないのでしょうか。	今後とも地域課題の解決に向けて、地域ケア会議をはじめ、行政や他関係機関で連携・協働していき、地域づくりにつなげたいと存じます。 また、地域における見守りとして「高齢者地域安心ネットワーク」があります。釧路市および地域包括支援センターが実施主体となり、協力機関（地域住民や関係機関・団体）をサポートし、住み慣れた地域で安心して暮らしていけるよう、地域ぐるみでの見守りや支えあいを支援しております。孤立死を防ぐことや、住民の暮らしにおける不安の解消等を目指しており、近隣で様子が気になる等あれば、各地域包括支援センターへお問い合わせください。
認知症に関する勉強会等は度々見かけますが、多死社会に向かう中、看取りに関する研修会も必要だと感じる事が多くあります（特に施設）。コロナ禍、入院できずに施設で看取った等なかったでしょうか？介護に携わる人たちが“死”を自然なものとして受け入れやすくなるような場が必要だと感じています。コロナが５類に移行していく中、対面での顔の見える研修会を徐々に再開できることを期待しています。	コロナ禍において入院できずに施設で看取った事例については、当課に寄せられている情報としての把握はありませんが、看取りに関する研修会は、今後の在宅医療・介護連携の推進をはかる上で、研修テーマを考える際の参考とさせていただきます。また、対面形式によるメリットをふまえ、開催形式についても併せて検討していきたいと存じます。

ご意見

地域共生社会の実現に向け、8050 問題や、生活困窮、ヤングケアラー等より問題が複雑化しており、行政や他職種、地域住民等の協力体制の強化が重要であると考えます。

また、コロナ禍により、地域住民との交流の場の減少や、生活不活発が大きな問題となっている。理学療法士 作業療法士 言語聴覚士会として自立支援型の個別会議や、介護予防事業、通いの場の創設支援等を通して、引き続き、自立支援や予防、重度化防止に向けて取り組んでいきたい。

各地域包括支援センターでの課題内容は地域の状況に違いはありますが、やはり認知症症状からくるものは共通課題となっています。

年々増加していく認知症人口に対しての、地域の理解と協力を得る取り組みに期待いたします。

地域包括支援センターの業務や活動を知ることができました。こまやかな対策と、幅広い事案対応に頭がさがります。